

ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和2年6月13日（土）～14日（日）1泊2日
- 3 対象者 高校生・大学生・一般（15歳以上、短大・専門学校生を含む）
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参加者 10人（高校生9人、社会人1人）
- 6 指導者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター体育・健康教育部門准教授 福満 博隆 氏
垂水消防署員、国立大隅青少年自然の家職員
法人ボランティア1人

7 日 程

6月13日（土）	6月14日（日）
9:20 受付	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義1「ボランティア活動の意義」	7:30 朝食
11:30 講義2「青少年教育施設の現状と運営」	8:30 新城海の家へ移動
12:30 昼食	9:00 実習2「自然体験活動の安全管理」（普通救命講習Ⅰ）
13:30 講義3「青少年教育における体験活動」	12:00 昼食
15:00 本館炊飯場へ移動	13:00 講義5「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:15 実習1「自然体験活動の技術」（野外調理）	14:15 閉講式 解散
19:45 講義4「青少年教育施設におけるボランティア活動」	
22:00 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- コロナウイルスの流行を踏まえ、研修期間中の感染対策等の協力依頼を参加者に事前の呼びかけを行った。
- 講義4では、質疑応答の時間を多く設けることで、参加者が自発的・積極的に発言できるよう配慮した。

9 参加者の感想

- ボランティア活動の意義を学んで、自分の地域だけでなく色々な地域のボランティア活動に多くの積極的に参加していきたいと思った。多くのことを学ぶことができて良かった。
- 宿泊を伴う体験型施設に対して、目的・目標等をどのように持っているのか知ることができた。
- 各自ボランティア養成員として意識し、KYTや指導する立場としてどこに注意していくか等、協力・声かけをしながらできた。
- 救急救命における注意点を分かりやすく実施・指導してくれ、とても良かった。

10 成果

- コロナ流行下ではあったが、体調不良者も出ることなく滞りなく事業を実施でき、結果的に参加者全員からボランティア登録の希望があった。

